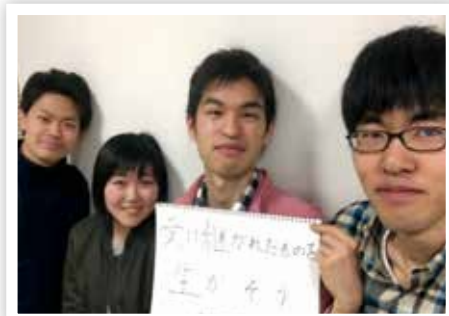


フィールドスタディ型政策協働プログラム (FS)

これまで活動した地域



鹿児島県

- 阿久根市
- 錦江町
- 南大隅町
- 北薩地域
- 大島地域

長崎県

- 雲仙市
- 南島原市

宮崎県

- 綾町
- 諸塚村
- 椎葉村
- 美郷町

高知県

- 高知市
- 土佐町
- 佐川町
- 越知町
- 日高村
- 黒潮町

奈良県

- 川上村

三重県

- 尾鷲市
- 鳥羽市
- 志摩市
- 南伊勢町

長野県

- 長野市
- 千曲市
- 北信地域

山梨県

- 南アルプス市
- 笛吹市
- 甲州市

山形県

- 鶴岡市
- 高畠町

青森県

- 五所川原市
- 十和田市

石川県

- 珠洲市
- 能美市
- 能登町

富山県

- 氷見市

滋賀県

- 長浜市
- 近江八幡市
- 米原市

鳥取県

- 境港市
- 湯梨浜町
- 南部町
- 日南町

福井県

- 福井市
- 鯖江市
- 南越前町
- 小浜市
- あわら市
- おおい町
- 大野市
- 坂井市

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため2020年度に実施したオンラインツール活用プログラム「オンライン形式によるFS地域交流会」で活動した地域を含む。



FSの取り組み

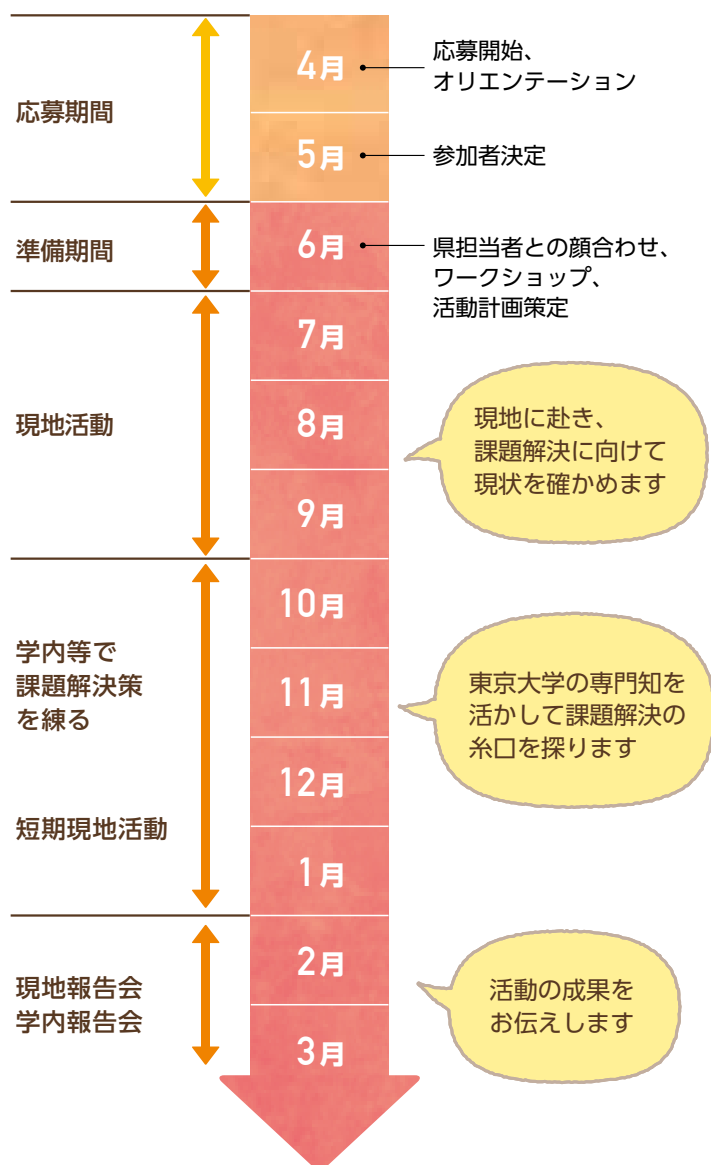
- 地方創生・社会の仕組み作り
- 伝統工芸・特産品を活かした地域振興策
- 地域ブランド発信策
- ツーリズム提案・検証
- 空き家・空き店舗・古民家・廃校の活用
- 移住促進策
- 住民サービス・交通政策
- 関係人口増加策
- 里山集落の持続性
- 文化の保存・継承・活用
- SNSの活用
- 市民大学設立
- 図書館の利活用
- 農地再生
- 住民の健康管理・対策

プログラム概要

地域課題解決に向けて、東京大学の学部学生、大学院学生がその道筋提案することを目指して活動いたします。学生は、投げかけられた課題に対し、チームを組んで地域に入り、現状について身をもって体験・把握し、学内の知見を有する教職員の協力も得て課題解決の糸口を探ります。事前調査、現地活動、事後調査を通じて、一年をかけて解決の道筋の提案を行います。

2017年のプログラム開始以降、毎年多数の学生が活動に参加しています。

活動スケジュールの目安



参加学生の声

課題 日本の25年先の社会は雲南市にある

2期生 島根県雲南市担当 古野 満理佳



島根県雲南市。高齢化率36.5%、日本の25年先の課題を抱えたこのまちは、課題解決のモデルを作ること、それを若者に託すことを決めました。日本で一番、若者がチャレンジしやすい街を目指すーこれが私の担当する雲南市です。

東大FSに参加するまでは、全く縁もゆかりもない地域とこんなにディープに付き合っていくことは考えられませんでした。現地奔走では学内のワークショップでは得られない体験を重ね、「何でも吸収したい、あの人とあのことについて語り合ってみよう」と、気づけばのめり込んでいる自分がありました。

東大FSに飛び込んでよかった、と心から思います。こんなに真剣に人と向き合い、地域と向き合ったことは人生で初めての経験でした。いつも対等な立場で意見交換して下さる現地の方々、雲南を離れた後も精力的に活動しているイトコ発見やインターンシップ参加の全国の仲間達、そして東大FSの他の参加者の存在に助けられ、迷いながら進んできました。今後も素敵な仲間達と走り続け、活動中に見えてきた自分の進むべき道を切り開きつつ、雲南市と関わっていきたく強く思っております。

課題 離島に移住者が集まる仕掛けづくり

2期生 三重県志摩市担当 小宮山 俊太郎



私は2018年に参加させて頂いたのですが、その際のテーマは志摩市の離島に空き家を活用して移住者を呼び込む仕組みを作ることでした。とはいえ、いくら移住に興味を持ってくれる人でも、関わりの薄い離島にはそう簡単には来てくれません。そこで、宿泊客が多く訪れるという島の特性を生かしつつ、島内観光を通じて島との繋がりを高めてもらえる方法を立案しました。

ここまでを読むと、一見それっぽいことをしているように思うかもしれませんが。しかし私たちの場合は、島民行きつけの店でお話をしたり、暗闇の中綺麗に星を見える場所を探しに行ったりした時間がほとんどでした。そうやって人と島に向きあう時間の中で、地域課題の本質は地域住民の表情を明るくすることに尽きていると実感できました。

活動地域の課題はデータを見れば色々ですが、人と場所に向き合うという本質はどの地域でも一緒に、それが一番貴重な経験です。きっとそれぞれの地域で面白い人たちが手ぐすね引いて待っているの、是非一度飛び込んでみてください！

課題 米原市の乗合タクシー「まいちゃん号」の運用を洗練させる

2期生 滋賀県米原市担当 高田 大成



2018年度に2期生として、滋賀県米原市の乗合タクシー「まいちゃん号」の運用をいかに効率化するか、という課題に取り組みました。

取り組み内容としては、市の担当者の方と共に地元の方・タクシー業者・さらには類似事例へのヒアリング調査やアンケート調査を行い、混雑の平準化や高齢者の外出支援につながるような施策を考えるといったものでした。

東京大学の学生であれば、学年・所属・専攻を問わず参加できることがこのプログラムの魅力です。学部1年生から社会人学生までが共に歩む仲間となり、進捗を報告しあったり、時にはお互いに議論しあったりします。また、教職員の方々も非常に親身になってサポートして下さいます。

そして何より、現地で様々な方々と触れ合い、その地域のことを考え、課題解決の道筋提案を行うまで、FSでの1年間の「奔走」は東京に留まっていたは決して得られない貴重な経験となりました。ぜひ皆さんも地域に飛び込んでみてください。

フィールドスタディ型政策協働プログラム (FS)

問い合わせ先

東京大学本部社会連携推進課
体験活動推進チーム
〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

電話 03-5841-2541/2542

Eメール fs-office.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp



Webサイトはこちら

ご寄付のお願い

体験活動支援基金 (FLY Program 他)
<https://utf.u-tokyo.ac.jp/project/pjt84>

キャンパス内での学びだけでなく、さらに、自ら学びの機会を国内外に求めようとする学生たちの意欲をご理解いただき、温かいお力添えをお願いいたします。



Webサイトはこちら